

| | | | | | | | |
|-----|--------------|---------------|---------------------------|----|---|-----|-------|
| 専攻名 | 両専攻共通 | 必修・選択 | 選択 | 単位 | 2 | 学期 | 2Q |
| 科目群 | 事業アーキテクチャ科目群 | 科目名 (英文表記) | リーダーシップ特別講義 Leadership | | | 教員名 | 嶋津 恵子 |

| 概要 | <p>毎回の授業は、講義と実習（拡張版ケーススタディ）の構成を取る。</p> <p>近年特に高度成長期以降、日本の産業界では協調性とともにリーダーシップの重要性が説かれ、特にその基本要素として積極性（アグレッシブ）がもてはやされてきた。一方、欧米では、15年ほど前から、アサーティブの重要性が注目され、リーダーシップ力に重要な要素とされている。これは、決して新しい発見ではなく、第二次世界大戦当時から、特に米国海軍でフォロワーシップ力として教育が徹底されてきている。</p> <p>この教本は、日本でも 防衛大学校で日本の国防の監部候補生らの教育に利用されている。</p> <p>本講義では、リーダーシップの基本に立ち返り、フォロワーシップに基づく社会的実用性の高いリーダーシップ力の獲得を目指す。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|----|--------|-----------|---|--|------|----------------------|----------------------------|--|-------------|---|-----------|---|--|-----|---|--|
| 目的・狙い | <p>目的 フォロワーシップに基づく社会的実用性の高いリーダーシップ力に必要な知識と基本的な実践力の獲得</p> <p>狙い 自身が突出することによるリーダーシップではなく、チームを押し上げることによるリーダーシップこそ、現在の日本の産業界復興に貢献することを認識する。</p> <p>修得できる知識単位</p> <p>(A3) K-05-14-05 プロジェクト資源マネジメント（レベル4）プロジェクトチームの結成、プロジェクトチームの育成、プロジェクトチームの管理</p> <p>(A3) K-05-14-08 プロジェクトコミュニケーション(レベル3)コミュニケーションの計画、情報の配布、コミュニケーションの管理</p> <p>(A3) K-09-22-01 行動科学（レベル4）リーダーシップ、コミュニケーション、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ネゴシエーション、モチベーション</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前提知識 (履修条件) | 何らかの組織活動に参加し、組織や小集団を牽引した経験があることが望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | <p>上位到達目標 強力なフォロワーシップ力を基盤とする実行力のあるリーダーシップ力を発揮できる。</p> <p>最低到達目標 リーダーシップ力醸成のために必要不可欠なフォロワーシップ力の獲得に関し理解する。 また、最低限のフォロワーシップ力を獲得し、実行することができる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の形態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>形態</th> <th>実施</th> <th>特徴・留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>録画・対面混合授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>対面授業</td> <td> 講義（双方向） 実習・演習（個人） </td> <td> <input type="radio"/> — </td> </tr> <tr> <td></td> <td>実習・演習（グループ）</td> <td> <input type="radio"/> 毎回メンバーの異なる6つのチームに分かれ、フォロワーシップとリーダーシップの実習を行う。 </td> </tr> <tr> <td>サテライト開講授業</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | 録画・対面混合授業 | — | | 対面授業 | 講義（双方向） 実習・演習（個人） | <input type="radio"/> — | | 実習・演習（グループ） | <input type="radio"/> 毎回メンバーの異なる6つのチームに分かれ、フォロワーシップとリーダーシップの実習を行う。 | サテライト開講授業 | — | | その他 | — | |
| 形態 | 実施 | 特徴・留意点 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 録画・対面混合授業 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 対面授業 | 講義（双方向） 実習・演習（個人） | <input type="radio"/> — | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 実習・演習（グループ） | <input type="radio"/> 毎回メンバーの異なる6つのチームに分かれ、フォロワーシップとリーダーシップの実習を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サテライト開講授業 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業外の学習 | 授業で指示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の内容 | 本科目は、講義・議論及びグループワークから構成される。授業計画を以下に示す。グループ演習への積極的参加が求められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 回数 | 内容 | サテライト 開講 | 対面/録画 |
|--------|--------|--|-------------|-------|
| 授業の計画 | 第 1 回 | 使用する教科書の紹介、授業の概要と特長の説明、評価方法の解説 リーダーシップの概念：リーダーシップの定義、見解の多様性、アプローチ、リーダーシップの三次元的概念 他 | — | 対面 |
| | 第 2 回 | 第 1 回目の講義の続き。 その後、翌週以降実施する拡張版ケーススタディーの解説と練習を行う。 | — | 対面 |
| | 第 3 回 | リーダーシップの心理学的研究における歴史的背景 人間行動における科学的方法 | — | 対面 |
| | 第 4 回 | 拡張版ケーススタディー：リーダーシップ空回り | — | 対面 |
| | 第 5 回 | 集団の行動と機能：集団の特徴、個人と集団、集団成員の欲求 | — | 対面 |
| | 第 6 回 | 拡張版ケーススタディー：チーム目標未到達 | — | 対面 |
| | 第 7 回 | 道義的リーダーシップ 有効なリーダーシップの人格的特徴 | — | 対面 |
| | 第 8 回 | 拡張版ケーススタディー：大事な情報が上がってこない | — | 対面 |
| | 第 9 回 | リーダーシップのダイナミックな特徴 コミュニケーション力によるリーダーシップ力の発揮 | — | 対面 |
| | 第 10 回 | 拡張版ケーススタディー：メンバー間の能力差 | — | 対面 |
| | 第 11 回 | 人間関係：他人に対する関心、同僚との関係、同僚を助けること、競争的協力 他 カウンセリングと面接 | — | 対面 |
| | 第 12 回 | 拡張版ケーススタディー：リーダーに不信感を抱くとき | — | 対面 |
| | 第 13 回 | 規律と士気：規律、積極的規律、消極的規律、士気作り、団結力 組織と管理 | — | 対面 |
| | 第 14 回 | 拡張版ケーススタディー：プロジェクトマネジメントを成功させるコツ | — | 対面 |
| | 第 15 回 | 全講義の振り返り | — | 対面 |
| | 試験 | これまでの講義を振り返り、総括する。第 1 回から第 15 回までの内容の理解に関する筆記試験を行う。 | — | 対面 |
| 成績評価 | | 知識を問う筆記式小テスト全 4 回 (50%) 、ケーススタディ評価 (30%) 、最終試験 (レポート) (10%) 、授業貢献 (高品質自由レポート提出、高品質質問 他) (10%) を基準として総合的に評価する。 | | |
| 教科書・教材 | | リーダーシップ：アメリカ海軍士官候補生読本、アメリカ海軍協会、生産性出版社 | | |
| 参考図書 | | ケースで鍛える 人間力リーダーシップ、保田健治、ダイヤモンド社 Six Thinking Hats: An Essential Approach to Business Management, Edward De Bono | | |